

PRAEVIDENTIA DAILY (12月31日)

昨日までの世界：突然の円全面高

昨日は、ドル/円の急落を受けて円が対主要通貨で全面高となったほか、米ドル安の余波を受けて豪ドルやNZドルなどが対米ドルで上昇した。ユーロやポンドも対ドルでつれ高となったが小幅に留まった。ドル/円相場は、東京時間は日経平均の下落を眺め、120円台後半から120円台前半へ軟化した。その後欧州時間入りにかけて特段の材料なく急落、120円を割り込み119円丁度手前まで下落した。欧州時間は一旦買い戻される局面もみられたが120円は回復せず、むしろ米株安や米中長期債利回り低下と共に再度下落に転じ、一時118.84円と119円を割り込んだ。NY時間引けにかけて119円台半ばへ反発した。結局、ドル/円が一時2円も下落するような大きな材料はなかったが、市場が薄い中で、日米株安やギリシャ懸念を受けた米中長期債利回りの低下がきっかけとなって、調整がやや大きくなったようだ。原油価格(WTI)はドル安もあってか小反発している。

米経済指標では、S&P ケースシラー住宅価格は前年比+4.5%と市場予想(+4.4%)を若干上回った一方で、消費者信頼感92.6と前月は上回ったものの市場予想(93)を小幅下回り、いずれも予想からの乖離が小幅だったこともあって市場の反応は限定的だったようだ。

ユーロ圏では、スペイン HICP 前年比が-1.1%と、前月の-0.5%、市場予想の-0.7%を大きく下回りデフレが強まったかたちだが、発表前後はドル/円の下落につれてユーロ/ドルも下落していたことから、指標への反応は限定的だった。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	-1.0	-0.02	-0.02	-0.00	-0.02	-0.02	-0.00	-0.5	-1.6	-0.5
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.0	+0.02	-0.01	-0.02	+0.01	-0.01	-0.02	-1.3	-0.5	-0.07
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	+0.3	+0.02	-0.01	-0.02	-0.01	-0.03	-0.02	-1.3	-0.5	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	+0.6	-0.03	-0.06	-0.02	-0.06	-0.07	-0.02	-0.5	-0.1	+0.1
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	+0.5	+0.01	-0.01	-0.02	-0.01	-0.03	-0.02	-0.5	-0.1	+0.1
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	-0.2	-0.01	-0.02	-0.02	+0.00	-0.02	-0.02	-0.5	+1.3	+0.1

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：除夜の鐘プラス10?12?

きょうの注目通貨：USD↑

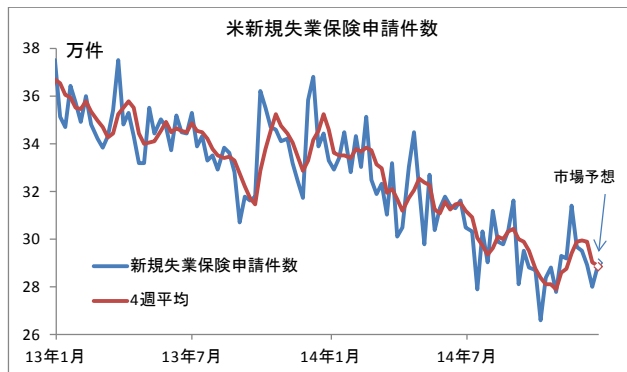
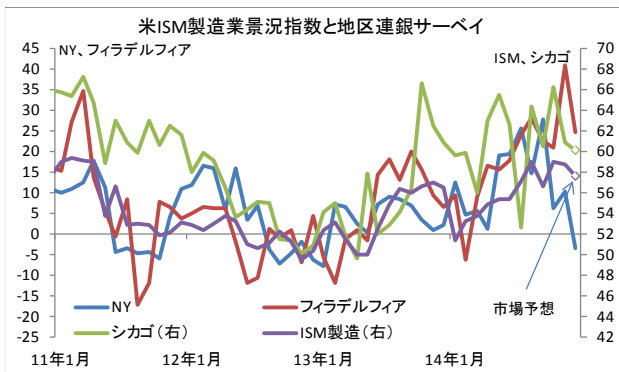
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<31日>豪、本邦休場				
豪 11 月民間信用・前月比	9 : 30	+0.6%		
中国 12 月 HSBC 製造業 PMI 改定値	10 : 45	50.0		速報は 49.5
米新規失業保険申請件数	22 : 30	28.0 万件	29.0 万件	
米 12 月シカゴ PMI				
米 11 月中古住宅販売仮契約	0 : 00	-1.1%	+0.5%	
<1月1日>元旦、殆どの市場が休場				
中国 12 月製造業 PMI 速報	10 : 00	50.3	50.1	
<2日>NZ、本邦休場				
英 12 月製造業 PMI	18 : 30	53.5	53.7	
米 12 月 ISM 製造業景況指数	0 : 00	58.7	57.6	
<3日>				
中国 12 月非製造業 PMI	10 : 00	53.9		
Rosengren ポストン連銀総裁発言	0 : 15			ハト派、投票権なし
<5日>				
Kocherlakota ミネアポリス連銀総裁発言	7 : 00			ハト派、投票権なし

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は欧米市場が開いており経済指標発表もあるが、市場参加者が少なく突発的なフローに左右され易い中で、相場に方向感を与える材料とはなりにくそうだ。米国では**新規失業保険とシカゴ PMI** が注目されるが、いずれも前回分からの悪化が予想されており（**下図を参照**）、どちらかといえばドル下押し要因だ。昨日も想定以上にドルが下落し不安定になっている中で、ドル/円は 118 円台へ更なる調整リスクもある。もっとも、昨日既に大きくドル/円が下落していることから、どちらかという、値頃感からのドル/円押し目買いが入り 120 円を回復しそうだ。なお、新規失業保険申請件数は 29 万人程度への増加であれば、週毎の振れを均すために注目される 4 週平均計数は 29.0 万件から 28.9 万件へ小幅減少する計算で、然程悪い数字ではない。

元旦の世界的な休場の後、2 日金曜は英米の製造業 PMI が発表される。**米 ISM 製造業景況指数**は米景気の短期的なモメンタムを見る上で重要で、特に今回は通常の前月と違い米雇用統計と同じ週の発表ではないことから、相対的に注目度は高いかもしれない。既発表の NY 連銀およびフィラデルフィア連銀分はこのところ悪化しており、31 日発表のシカゴ分も悪化すると、ISM も 10 月をピークとして 2 か月連続の悪化の可能性が更に高まり、ドル上昇を抑制するかもしれない。

なお、元旦発表の**中国製造業 PMI** は 7 月の 51.7 をピークに鈍化傾向が続いている。最近では中国の景気減速シナリオ自体は既に織り込み済みとなっており、豪ドルや NZ ドルもあまり影響を受けなくなってきているが、景気拡大/縮小の分かれ目である 50.0 を割り込むようだ、さすがに株価や豪ドルが悪影響を受けるかもしれない（市場予想は 50.1）。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641